

## 5月22日(日)

関連プロ	発表者	タイトル	著者	セッション	発表形式	発表日時	会場
1 奥田プロ	奥田 昇	学際科学に基づく順応的流域ガバナンス:生物多様性が駆動する栄養循環と人間のしあわせ	奥田 昇	[H-CG27] 環境問題の現場におけるScientistsとStakeholdersとの協働	口頭	5月22日(日) 09:15 ~ 09:30	102 (1F)
2 田中プロ	清水 貴夫	驚き、学び、励ます:サーヘル地域の砂漠化研究における研究者と調査対象者のかかわりから	清水 貴夫	[H-CG27] 環境問題の現場におけるScientistsとStakeholdersとの協働	口頭	5月22日(日) 10:00 ~ 10:15	102 (1F)
3 センター	窪田 順平	地域の水資源管理におけるコミュニティとの共創—インドネシア及びトルコの事例から	窪田 順平	[H-CG27] 環境問題の現場におけるScientistsとStakeholdersとの協働	口頭	5月22日(日) 10:15 ~ 10:30	102 (1F)
4 センター	近藤 康久	ジオ系ソーシャルストーリーミング番組「友引Night!!」の復活	近藤 康久、西村 雄一郎	[M-TT29] ソーシャルメディアと地球惑星科学	口頭	5月22日(日) 11:15 ~ 11:30	301A (3F)
5 所長	安成 哲三	Future Earth—その科学と社会における意義について	安成 哲三	[U-05] Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究	口頭 招待講演	5月22日(日) 13:45 ~ 14:00	301B (3F)
6 副所長	谷口 真人	日本が取り組むべきフューチャー・アースの国際的優先研究テーマの抽出及び研究開発のデザインに関する研究	谷口 真人、マレー ハイ、大西 有子、西村 武司、蛭名 邦禎、伊藤 真之、鶴田 宏樹、近藤 康久、安成 哲三	[U-05] Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究	口頭	5月22日(日) 15:45 ~ 16:00	301B (3F)
7 田中プロ	手代木 功基	乾燥地の砂漠化問題における外部者と地域住民の協働	手代木 功基	[H-CG27] 環境問題の現場におけるScientistsとStakeholdersとの協働	ポスター	5月22日(日) 17:15 ~ 18:30	ポスター会場(国際展示場 6ホール)

## 5月23日(月)

関連プロ	演者	タイトル	著者	セッション	発表形式	発表日時	会場
8 中塚プロ	佐野 雅規	近世日本における気候変動が米収量に及ぼす影響の評価—樹木年輪と免定に基づく解析	佐野 雅規、鎌谷 かおる、中塚 武	[M-IS17] 古気候・古海洋変動	ポスター	5月23日(月) 17:15 ~ 18:30	ポスター会場(国際展示場 6ホール)

## 5月24日(火)

関連プロ	演者	タイトル	著者	セッション	発表形式	発表日時	会場
9 副所長	谷口 真人	水・エネルギー・食料ネクサス:熱エネルギーとしての陸域地下水利用が沿岸水産資源へ与える影響	谷口 真人、杉本 亮、田原 大輔、小路 淳、富永 修、本田 尚美、天谷 祥直、小原 直樹、潮 浩司	[A-CG23] 沿岸海洋性態系—1. 水循環と陸海相互作用	口頭	5月24日(火) 09:45 ~ 10:00	301A (3F)
10 遠藤プロ	本田 尚美	夏季の大槌湾における海底地下水流入量および栄養塩輸送量の推定	本田 尚美、杉本 亮、小路 淳、富永 修、谷口 真人	[A-CG23] 沿岸海洋性態系—1. 水循環と陸海相互作用	口頭	5月24日(火) 10:15 ~ 10:30	301A (3F)
11 センター	陀安 一郎	多元素同位体を利用した地球環境学研究の展開	陀安 一郎、SHIN Ki-Cheol、中野 孝教	[H-TT21] 環境トレーサビリティー手法の開発と適用	口頭	5月24日(火) 10:45 ~ 11:00	101A (1F)
12 センター	太田 民久	大気降下物の起源および蓄積量をコケのストロンチウムおよび鉛同位体比から推定する試み	太田 民久、大石 善隆	[H-TT21] 環境トレーサビリティー手法の開発と適用	口頭	5月24日(火) 11:15 ~ 11:30	101A (1F)
13 所長	安成 哲三	Future Earth—持続可能な地球社会をめざして	安成 哲三	[U-06] 大型研究計画—マスタープラン2017とその先を見据えて	口頭 招待講演	5月24日(火) 15:07 ~ 15:20	102 (1F)
14 センター	中野 孝教	福井県大野盆地の地下水の地球化学的水脈診断	中野 孝教、申 基澈、太田 民久、草野 由貴子、陀安 一郎、山田 佳裕、横尾 頼子、辻村 真貴、池田 浩一、帰山 寿章、山田 明弘、下島 浩平、小澤 弘幸	[H-TT21] 環境トレーサビリティー手法の開発と適用	口頭	5月24日(火) 15:30 ~ 15:45	101A (1F)
15 センター	齋藤 有	東北沿岸における貝類軟組織Sr-Nd同位体比の地域変化	齋藤 有、中野 孝教、申 基澈、山下 勝行、天川 裕史、由水 千景、松林 順、加藤 義和、富樫 博幸、天野 洋典、栗田 豊、奥田 昇、陀安 一郎	[H-TT21] 環境トレーサビリティー手法の開発と適用	口頭	5月24日(火) 16:15 ~ 16:30	101A (1F)
16 遠藤プロ	山田 誠	大分県別府地域の沿岸域への温泉熱の流入が河口域周辺の魚類群衆に与える影響	山田 誠、小路 淳、大沢 信二、三島 壮智、宇都宮 達也、本田 尚美	[A-CG23] 沿岸海洋性態系—1. 水循環と陸海相互作用	ポスター	5月24日(火) 17:15 ~ 18:30	ポスター会場(国際展示場 6ホール)
17 センター	SHIN Ki-Cheol	安定同位体分析のための環境試料の化学的分離法	SHIN Ki-Cheol	[H-TT21] 環境トレーサビリティー手法の開発と適用	ポスター	5月24日(火) 17:15 ~ 18:30	ポスター会場(国際展示場 6ホール)
18 センター	近藤 康久	同位体環境学のオントロジーを構築する	近藤 康久、熊澤 輝一、関野 樹、陀安 一郎、中野 孝教	[H-TT21] 環境トレーサビリティー手法の開発と適用	ポスター	5月24日(火) 17:15 ~ 18:30	ポスター会場(国際展示場 6ホール)

## 5月26日(木)

関連プロ	演者	タイトル	著者	セッション	発表形式	発表日時	会場
19 奥田プロ	奥田 昇	流域の栄養循環を駆動する河床微生物群集の生態系機能評価	奥田 昇、岩田 智也、林 拓矢、村上 綾、陀安 一郎、石川 尚人、岡野 淳一、富樫 博幸、中野 伸一、酒井 陽一郎、Uhram Song、尾坂 兼一、Cid Abigail	[A-HW16] 流域生態系の水及び物質の輸送と循環—源流域から沿岸域まで—	口頭	5月26日(木) 11:15 ~ 11:30	302 (3F)
20 羽生プロ	羽生 淳子	食の多様性・気候変動と生業・集落システムのレジリエンス:縄文時代の事例研究	羽生 淳子	[H-QR15] ヒト-環境系の時系列ダイナミクス	口頭	5月26日(木) 11:15 ~ 11:30	101A (1F)

関連プロジェクト等	セッションID	タイトル(日本語)	タイトル(英語)	役職等	氏名
研究基盤国際センター	<a href="#">U-05</a>	Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究	Future Earth - The Integrated Research for Sustainable Future	共同コンピーナ	安成 哲三 谷口 真人
1	口頭発表 <a href="#">9:00-18:00</a>	5月25日 103	世界の地球環境研究はFuture Earth 計画の旗の下で抜本的に再編成されつつある。地球の営みと地球表層に生起する地人関係や自然災害を含む諸事象を主たる研究対象とする地球惑星科学にとって、Future Earth 計画への貢献は全人類的使命である。その使命をわが国の地球惑星科学コミュニティとして、他の国々の研究者と連携してどう果たすべきかを、議論する。		
奥田プロ	<a href="#">A-HW16</a>	流域生態系の水及び物質の輸送と循環－源流域から沿岸域まで－	Water and material transport and cycles in catchment ecosystems: from headwater to coastal area	共同コンピーナ	奥田 昇
2	口頭発表 <a href="#">9:00-10:30</a> <a href="#">10:45-12:15</a> <a href="#">13:45-15:15</a> ポスター発表 <a href="#">15:30-16:45</a>	5月26日 302 302 302 国際展示場	本セッションでは、流域生態系における水・物質輸送および物質循環の物理・化学・生物プロセスに関する研究発表および分野横断的な議論を期待する。例えば、流域(土壌/斜面)物質輸送、懸濁物質輸送と溶存物質相互作用、地下水流動系と混合・輸送、土壌/斜面スケールの評価と流域へのスケールアップ、不均一性や非定常性、気候変動や人間活動の影響など長期スケールでの研究などである。さらに、リン・窒素などの循環、汚染物質の起源や流域から沿岸域、外洋域への輸送とその影響、河川-地下水交流、トレーサー技術の開発と生態学や地理学・考古学への応用などは重要である。以上のような課題を含む研究発表を通して、学会/分野横断的な議論を目指したい。		
遠藤プロ	<a href="#">A-CG23</a>	沿岸海洋生態系－1. 水循環と陸海相互作用	Coastal Ecosystems - 1. Water Cycle and Land-Ocean Interactions	共同コンピーナ	山田 誠
3	口頭発表 <a href="#">9:00-10:30</a> <a href="#">10:45-12:15</a> ポスター発表 <a href="#">17:15-18:30</a>	5月24日 301A 301A 5月24日 国際展示場	陸域から河川水や海底湧出地下水を介して供給される物質は沿岸海域の生物生産過程に不可欠である。本セッションでは、水循環を介した陸域と海域の相互作用に主眼を置く。生態系の連環、陸域および沿岸域の水循環、水産資源、生物多様性に関する知見を学際的に取り上げ、沿岸域の高い生物生産力や生物多様性を生み出す仕組みを陸海相互作用の観点から総合的に議論することを目的とする。陸・沿岸海域の水・物質循環、沿岸の水産資源・生物多様性、沿岸生態系の連環などに関する研究発表を歓迎する。 なお、本セッションと連携開催を希望するセッション「沿岸海洋生態系－2. サンゴ礁・海草藻場・マングローブ」においては、サンゴ礁、海草藻場、マングローブ域など浅海域の底生生態系を主対象とし、水循環以外の物質循環を含めた生化学過程を広く扱う。物質循環の季節・空間変動パターンや生態系サービスの多様性に着眼することにより、本セッションとの区別を明確化する。共通した情報が多いこれら2つのセッションに参加することにより、研究者は重要な情報を得ることができる。		
所長	<a href="#">H-SC04</a>	Implementing Geoscience Research for the Earth's Future	Implementing Geoscience Research for the Earth's Future	共同コンピーナ	安成 哲三
4	口頭発表 <a href="#">10:45-12:15</a>	5月23日 101A	A new comprehensive framework and integrative research platform for global sustainability studies called Future Earth has been established. Many of the former core projects of IGBP (International Geosphere-Biosphere Programme), IHDP (International Human Dimensions Programme) and the other international global environmental change programmes have joined it in order to continue and further develop their missions in a more transdisciplinary context. This Session aims to discuss the key issues for implementation of Future Earth in general, and the challenges of geoscience including its incorporation of human and social aspects of global change, such as done in GLP (Global Land Project), in particular.		
研究基盤国際センター	<a href="#">H-TT21</a>	環境トレーサビリティ手法の開発と適用	Development and applications of environmental traceability methods	代表コンピーナ 共同コンピーナ	陀安 一郎 中野 孝教
5	口頭発表 <a href="#">10:45-12:15</a> <a href="#">13:45-15:15</a> <a href="#">15:30-17:00</a> ポスター発表 <a href="#">17:15-18:30</a>	5月24日 101A 101A 101A 5月24日 国際展示場	現代社会は、自然界に存在するほとんどの元素を利用している。それをもたらす資源の持続的利用と環境に調和した社会の実現が叫ばれて久しいが、環境全体の質的変化に伴う人間圏の生存リスクは複合的に拡大している。国際科学者会議は、地球環境に関する国際共同研究(WCRP, DIVERSITAS, IGBP, IHDP)をFuture Earthとして統合し、人間環境安全保障社会の実現に向けて、人文社会科学を巻き込んだ革新的な自然科学の創出を強く求めている。自然環境の各要素や人間のつながりを診断・追跡する手法とその社会での広範な適用が必要になってきた。 天然物や人工物を構成する各元素は、大気や水、生物などの地球の各圏および人間社会や人体の中に形を変えて移動している。多元素の濃度とその安定同位体比の情報は複雑な物質動態の追跡に有効であり、生態系サービスや大気水循環、生活や健康など人間を対象とする諸研究に利用されている。Future Earthの実現には、各分野で発展してきた各手法の統合とエコラベリングやモニタリングなどの社会実装が必要である。その目的に必要な、環境トレーサビリティ手法の開発とその適用例の情報交換のため本セッションを申請する。		
田中プロ	<a href="#">H-CG27</a>	環境問題の現場におけるScientistsとStakeholdersとの協働	Collaboration between scientists and stakeholders at the scene of environmental issues	共同コンピーナ	手代木 功基
6	口頭発表 <a href="#">9:00-10:30</a> ポスター発表 <a href="#">17:15-18:30</a>	5月22日 102 5月22日 国際展示場	多発する地球環境問題を背景として、社会のための科学の実現は科学者の喫緊の課題となった。課題解決型プログラムであるフューチャー・アース(FE)では Stakeholdersとの協働によるTransdisciplinarityの実現が重要な達成目標として掲げられている。しかし、多層的な Stakeholders、Stakeholder間の利害調整、Decision makerとの関係等、考慮すべき課題は多い。本セッションでは問題の現場における協働の実践例を通して、社会における科学の役割と、課題解決への科学者の関与のあり方について議論する。		
中塚プロ	<a href="#">M-IS17</a>	古気候・古海洋変動	Paleoclimatology and paleoceanography	共同コンピーナ	佐野 雅規
7	口頭発表 <a href="#">13:45-15:15</a> <a href="#">15:30-17:00</a> ポスター発表 <a href="#">17:15-18:30</a> 口頭発表 <a href="#">9:00-10:30</a> <a href="#">10:45-12:15</a> <a href="#">13:45-15:15</a> <a href="#">15:30-17:00</a>	5月23日 A04 A04 5月23日 国際展示場 5月24日 A04 A04 A04 A04	本セッションは、陸と海の両方から復元される古環境情報とモデル研究の統合を目指し、数年からテクトニクスが関わる時間スケールまでの古環境変動やイベントに関わる研究を取り扱う。陸域・海域、時代、手法を問わず幅広い内容の発表を歓迎する。 本年度は通常の講演に加えて、高精度古気候観測網の構築に関する特別企画を設ける。過去の気候変動の周期や振幅、空間様式、メカニズムなどの知見は、近未来の気候変動の理解の上で重要な手掛かりを与え得るが、これまでの古気候記録は、観測点の空間密度、時間精度、解像度が必ずしも十分ではなかった。そこで本特別企画においては、水月湖年縞堆積物や近年のIODP Exp 346日本海掘削コアに代表されるような高時間解像度連続古気候アーカイブの確立、絶対年代や鍵層に基づいた古気候アーカイブ間の精密対比による古気候観測網の構築、そしてその古気候観測網を利用した古環境復元と環境動態の解析の可能性について、最新の知見を見渡しつつ議論したい。本セッションにおいて古環境研究に興味を持つ幅広い分野の研究者が集い、連合大会ならではの活発な交流の場となることを期待する。		
研究基盤国際センター	<a href="#">M-GI04</a>	Open Research Data and Interoperable Science Infrastructures for Earth & Planetary Sciences		共同コンピーナ	近藤 康久 石井 励一郎
8	口頭発表 <a href="#">9:00-10:30</a> <a href="#">10:45-12:15</a> ポスター発表 <a href="#">17:15-18:30</a>	5月23日 A02 A02 5月23日 国際展示場	JpGU has been facilitating sessions related to data and information topics in past meetings, convened by groups/communities with interdisciplinary interests including scientific data centers, data systems, data sciences, and social network services. New dimensions and cross-disciplinary subjects are expected for further contribution to advancing the earth and planetary sciences. On the other hand, Open Data and Open Science are increasingly becoming hot topics, in parallel to establishing ICSU-WDS (2008), G8 Open Data Charter (2013), deployment of RDA (2013), and so forth. New data and tools infrastructures are now emerging in Europe, Japan and in the United States aiming at improving the data availability in Solar (Virtual Solar Observatory), Earth (IUGONET, SPASE) and Planetary Sciences (NASA-PDS4, GIS technologies, Europlanet/VESPA...). Major space agencies are now investing in this technology, with the ultimate goal to dramatically enhance the science return of the shared data. The JpGU community will be encouraged to discuss about our reaction, our contribution to the above data and information issues, and what future benefits and problems inherent in earth and planetary sciences will be.		